

## 植栽年代の明確なソメイヨシノ（群馬県前橋市）

日本樹木医会 群馬県支部 塩原 貴浩

キーワード：ソメイヨシノ、植栽履歴、樹齢 120 年、前橋市、維持管理

### はじめに

美人薄命で知られるソメイヨシノであるが、さまざまな説があり、その実態ははまだ解明されていない。

江戸時代末期から明治初期に染井村で登場したといわれるソメイヨシノは、育ちも早く、葉が出る前に花が豪華に咲くことが好まれ、瞬く間に全国に広がっていった。多くの個体は日露戦争勝利記念（1905）や紀元二千六百年（1940）などの国家的記念行事の際に全国に大量に植栽された。これらの老樹が、過密状態による光条件の悪化や、舗装などによる生育環境の劣化とともに、てんぐ巣病の蔓延により、各地で衰退の兆候を示し、90年代には「ソメイヨシノ寿命 60 年説」を唱える書物がしばしば現れた。しかし、群馬県の旧宮城村（現前橋市苗ヶ島町）には、この説の倍の寿命を誇り、全国でも珍しい植栽年代のはっきりしている古木がある。

今回紹介するのは、短命説を再考する資料木として、貴重なものである。

### 歴史的背景

記録によれば、明治 31 年（1898）に東宮六郎治吉勝ほか 6 名による植樹が日記に残されており（写真 1）、村内の歴史・古文書をとりまとめた宮城村誌（1973）に「苗ヶ島神社及金剛寺附近櫻樹」として記載がある。金剛寺は承安年間（1171～1175）創建の古刹で、幾多の火災を経て慶長～元和の頃



写真1 東宮氏の日記原本  
2節目にサクラの記述がある

（1596～1624）、現在地に建立されたと伝えられる。東宮氏は宮城村の初代村長で、大河ドラマ「花燃ゆ」で話題となった初代県令<sup>かとり</sup>榎取素彦とも交流のあった人物である。

現存するソメイヨシノで最古の植栽記録が残っているのは、明治 15 年（1882）に青森県の弘前公園に植えられたもので、樹齢 130 年を経ている。これと 16 年の差はあるが、宮城村の個体も 120 年近くあり、履歴の明確な貴重な存在である。

### 現状

当時植栽されたものと推測される個体が、金剛寺本堂脇の境内に 1 本、参道に 15 本、東宮家に 1 本現存する。赤城山南面の標高 320m 付近に生育し、厳しい赤城おろしや幾多の風雪に耐えてきた風格がある。

境内の個体は、光条件も良く、枝を四方に広げ（南北 11m 東西 9.2m）、主幹と大枝に折損が見られるが高さは 8.5m あり、樹勢は旺盛で、折損部には癒合組織が発達している。また、幹周は 2.75m あり、腐朽部に不定根が成長し、物理的な補強の役割を担っている（写真 2）。参道の並木はそれぞれ、高さが 4～7.6m あり、いずれも気象害等により、樹幹や大枝の折損した痕跡がある。幹周は 1.5～2.65m と幅があり、近隣のソメイヨシノと比べ、幾分成長が穏やかに思われる（写真 3）。植栽間隔は約 7.5m であり、これらの間に新しく補植されたと思われるやや細い個体が所々あり、枝が接触し、やや狭く感じる。調査時はてんぐ巣病の発生が多数みとめられたが、現在、石橋照夫樹木医（前橋市）が除去に努め、適切な管理を行っている。

東宮家の個体は、明治末期の開花時の写真が残されている（写真 4）。サクラは隠居屋の前庭にある回遊式



写真2 金剛寺本堂脇のソメイヨシノ



写真4 明治末期に撮影された東宮家周辺



写真3 参道より本堂を望む



写真5 東宮家のソメイヨシノの現状 (2016年1月)

枯山水庭園の築山上にあり、四方に向かって満開に咲く姿は、家屋からの眺めの素晴らしさが想像できる。現状は幾多の気象害にみまわれ、物理的損傷が著しく、往時の勢いはないが、連綿と命をつないでいる(写真5)。

現当主の東宮<sup>あつよし</sup>惇允氏は「わが家のサクラの思い出といえば、門を出て、前の通りから塀越しに見上げるサクラの記憶しかない。本当は隠居所の縁側から眺めることができるのだがそれができなかったからで、母屋と中庭の間には土塀があり、その先の一段高い所に隠居屋が建てられていたのだが、そこから奥には許された者しか入れなかったと祖父が言っていた。隠居屋の西側に隠し戸があり、そこからすぐに金剛寺の参道に出られる。桜祭りの日には、参道の両側に屋台がずらりと並び、多くの村人が花見に訪れ、賑わっていた」と語る。

現在も毎年4月の日曜日、金剛寺を会場に苗ヶ島自治会主催で桜祭りが催されている。

### 今後の課題と展望

ソメイヨシノの寿命が短いといわれる理由としては、生育環境をはじめ、接ぎ木による繁殖方法や損傷部からの木材腐朽が進行しやすいこと、病虫害の多さなどが指摘されている。人が作り出した園芸品種のソメイヨシノは、人の手をかけなくては衰弱・枯死に近づいていく。この目安が60年ということではないだろうか。

いずれにせよ、ソメイヨシノも他の樹木と同様に、植栽間隔を適度にあけて、土壌状態の劣化を防止し、生育環境を整え、折損部の処置や剪定・施肥・薬剤散布などの適切な維持管理を適期に行えば、美人長命の代表格となるかもしれない。

### <プロフィール>

東京農業大学大学院修了後、京都の桜守で知られる佐藤藤右衛門氏に師事。2006年より家業の造園業の傍ら、各地のサクラを中心に樹木の診断・治療にあたる。